

公益財団法人 8020 推進財団

令和3年度歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：DVD「歯肉が危ない」（仮）作製

2. 申請者名：伊藤裕一郎、青木宏道、竹内紀雄、柳瀬章雅、高村秀平
嶋 隆義、水野良洋、横山 忠、村田宜彦、酒井文雄

3. 実施組織：名古屋市学校歯科医会

4. 事業の概要：名古屋市学校歯科医会では小学生の歯肉炎予防を目的に名古屋市教育委員会と共に、1988（昭和63）年度より歯科疾患特別健診を実施してきた。その中で歯肉炎に対する教材を製作し市内の小学校に配布してきたが、その教材DVD「歯肉が危ない」の改訂が必要となった。

改訂にあたっては過去の内容の見直しを行い、現在の教育現場での使用を考慮したものと計画し、3年間の継続事業とした。今年度は2年目となり、実際にDVD制作を行った。

1年目 内容の確認、追加事項選定、資料収集、制作コンテンツの作成、調査

2年目 コンテンツの編集、監修

撮影、DVD作成、配布

3年目 DVD活用事例の調査、活用方法の再確認

5. 事業の内容

名古屋市学校歯科医会内にてDVD作製にむけて検討委員会を設立し、教材制作会社（教育出版株式会社）と名古屋市歯科衛生士会に御協力いただき、名古屋市学校歯科医会顧問の愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座嶋崎義浩教授に御監修をいただいた。

令和2年度より事前の準備を行い、過去の資料の見直し、追加事項等の精査を行ってきた。令和3年度はそれをさらに具体化する作業をおこなった。

歯や口の健康づくりの中でも、歯肉は①鏡をみれば自らが観察できる対象であること、②知識・理解が容易であること、③行動した結果が自己評価しやすいことなど子供を対象とした健康教育題材として大変有効と考えられている。

今回のDVD作成においては児童生徒が自ら観察、評価できるよう、健康な歯肉と炎症のある歯肉の違いを理解できるように、また歯肉炎が適切なブラッシングなどで改善することが伝わるように努めた。歯肉炎の主たる原因が歯周病原菌であることをわかりやすく伝えるため、プラークの位相差顕微鏡像を用いて、児童生徒が歯みがきの重要性を学習できるようにした。

また病態を理解しやすくするため、歯周炎の進行を図で示すことや動揺歯の動画などを用い、また全身疾患との関連性も図説し、早期予防・早期治療を行うことが、歯・口の健康づくりに大切であることを解説することとした。

適切なプラークコントロールを行うため、清掃補助器具についても解説を行うことで学校現場での保健指導の参考資料として使用できるものを目指した。

また名古屋市から名古屋市学校歯科医会への委託事業の一つに歯科疾患特別健診事業があり、そこではPMA指数を用いて歯肉炎の春・秋の変化を評価している。その評価方法であるPMA指数を普及させるために養護教諭向けにPMA指数を解説するチャプターも設けた。

最終的にタイトルは「歯肉があぶない ～歯肉を守ろう～」とした。

6. 実施後の評価(今後の課題)：

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大のため委員会開催もオンライン会議がメインとなり対面での作業が難しい状況が続いたが、改訂にあたり学校での保健指導に活用していただけるものとなるよう、様々な意見や表現の精査をおこなった。DVD全体を通して歯周病の原因、病態を理解し、その予防法を自己学習することで、問題解決能力を養うことで、歯・口の健康づくりのみならず全身の健康増進を自己の力で行うことになり、8020運動に示されるような生活の質的な向上につなげていく一助になるとものになったのではと考える。

令和4年度は

学校現場での使用状況の調査、活用方法の提案などを予定している。